

有限会社エコ・ライス新潟

新潟県長岡市脇川新田町字前島970-100  
TEL:0258-66-0070 & FAX:0258-66-0447

# クイーン倶楽部だより 5月号

製造特許・実用新案申請中



## 越後そだちの 新潟はんぶん米 ついに完成!

(財)にいがた産業創造機構ものづくり支援事業に採択された「低タンパク質米の電解質を低減させたアルファー米の開発」で、「はんぶん米」が完成しました。

このはんぶん米は、春陽を原料とし、腎臓の機能に障害がある方に有害なカリウム・リンを低減させたもので、健常者も腎機能に障害がある方も食べられる無添加のアルファー米です。



作りかた



1 脱酸素剤とスプーンを取り出します



2 熱湯又は水を袋の内側の黒い線まで注ぎます



3 よくかき混ぜた後チャックを閉め、熱湯で20分、水で60分お待ちください



4 よくほぐしてからお召し上がりください (出来上がり約260g)

## Dr中村のお米の話



中村 信也(なかむらのぶや)

整形外科医師。東京家政大学家政学部栄養学科教授として教鞭をとり、「食と医療」の医療薬膳研究の第一人者として活躍中。

### 第5回 農林18号

知っている米の品種は？と聞かれれば、私の場合吐き出すものは「農林18号」です。我々の少年時代の品種で、脳裏に焼きついています。当時、漫画に夢中で「鉄人28号」は大好きでした。それに似た響きがあり、ますのでよく憶えています。子供心ながら、稲の世界では凄く奴なのだと思っていました。

検索によれば、農林18号は昭和18年にデビューしたのころ呼ばれています。当時は愛知旭と競り合うぐらいの人気の米でした。愛知旭は昭和13年から25年ぐらいに人気があり、やがて農林18号が出来ます。人気は新人に移りました。しかし、農林18号も昭和20年代後半から30年代前半の人気でした。全く芸能界に似ています。戦後になりますと、多くの品種が新たにできて18号は影を潜めました。

日本に米は縄文時代後期から入ってきましたが、日本人にぴったりと合い、もつと多収穫を合言葉に品種改良を進めてきました。特に、明治末に人工交配による新商品開発が盛んになり、各試験場がばらばらに開発したのでは効率が悪く、昭和初期に国が管理して分担で開発が行われるようになりました。そして、生まれたのが昭和6年の「農林1号」でした。

農林1号は美味しい品種でしたが、病気に弱い弱点があったようです。やがて農林2号、6号、8号、18号、22号、29号、37号などが世に出ました。やはり、鉄人28号みたいなものです。鉄人28号は敷島博士が失敗を重ね、やっと出来たのですが、農林18号はある試験所の研究員が作りあげたのです。この品種は多収穫できる強みがあったようです。

やがて、時が経ち、戦後になり量より味という時代が到来しますと、18号はすたれていきました。やがて、大型新人が出現しました。昭和31年、農林1号を父親に、農林22号を母親にして生まれた「こしひかり」です。この品種が日本を席巻していきましたが、同じ兄弟の「はつしき」が「ささしぐれ」と結婚し、「ささにしき」という大型新人が生まれました。こしひかりは「あきたこまち」「ひとめぼれ」を生み、現在日本の主流になっています。まるで競走馬のような系図になりますが、今後どういふことになるか楽しみです。

今度、長岡でよみがえる品種はどういう系統か話を聞きたいものです。

《「はんぶん米」の研究開発には、難関が山積でした。当初の完成予定より大幅に遅れ、3月末ギリギリで完成しました。》

《実用新案を申請した「段階ボールトレー」は、中越地震の体験を元に製作しました。避難所は不衛生になりがちで、床に食べ物を置くことを敬遠する方が多数いらつしやうだからです。》

《「はんぶん米」の開発には、(財)にいがた産業創造機構、長岡造形大学・松丸武教授、長岡高等専門学校・菅原正義准教授にご協力いただきました。》